

● CLIMAX#1 : Gylfaginning

◎ Scene Card : MISTRESS

(女性による支配)

○ Scene Player: RLScene

• Stage : " 氷原 " / 教皇領

† BGM : 『 回線不良 / TALES OF LEGENDIA O.S.T. Track05
』

吹雪。

淡い月光と、氷の下から漏れる祭りの灯りだけが彼らを照らしていた。



「結界構築は完了いたしましたわ。どうぞ、ご随意に」

" 水 " の "tragolDIA" ヴィオレッタ。



「今兵団を呼び出す。一分待て」

" 地 " の "DIEs irae" スカルピア。



「ふむ。先鋒はお任せしたいところですがな、全くもってそうではございません。いえいえ自信がないわけでは全くありませんと申すことも——」

"風"の"bad ROar" ドゥルカマーラ。



「一人で足りる」

"火"の"PLUgatorio" イヤーゴ。

【天社】：RL シーンきた。

【アカシャ】：幹部が……っ。

【RL】：「往くぞ。スカルピア、さっさとしろ」

舌打ち。スカルピアが、髑髏の杖を掲げる。

「おお、地獄の門よ、その傲慢なる大口、開いて猛れ!!」

「Dies ira, dies illa!!」

「solvat sacrum in favilla!!」

「teste David cum Sibylla!!」

「Quantus tremor est futurus!!」

「quando iudex est venturus!!」

「cuncta stricte discussurus!!」

「来たれ、審判者!!」

「ダビデとシビラは貶めた!!」

「さあ、世界が灰燼に帰す日だ!!」

【アカシャ】：怒りの日!

【RL】：1.増幅杖:準備

M.<自我><分心:Gaudium><親衛隊:TAROS><親衛隊:21><親衛隊:20><親衛隊:19><社会:アストラル>

【感情】8+2+10(報酬点)+C9=29。

【雲外鏡】：ごごごご。

【アカシャ】：どどどど。

【天社】：なんか、いっぱい来る……。

【アカシャ】：分心と、親衛隊が4つ……?

【RL】：ゴゴゴゴゴゴゴゴ……!!!

Gaudium: エニグマ (バサラ)

TAROS: トループ (アヤカシ)

21: トループ (アヤカシ)

20: トループ (アヤカシ)

19: トループ (アヤカシ)

☆全て 29 体。

【アカシャ】：いっぱいきたー。

【雲外鏡】：ごごごごご。

【天社】：AR3 か。

【RL】：先ず顕れたのは、巨大な生ける土の塊。スカルピアの足元からあらわれ、彼を守護するように包み込む。

そして。

200m 級戦略破壊ゴーレム TAROS 出現 !!

100m 級戦術破壊ゴーレム "21" 出現 !!

10m 級兵団ゴーレム "20" 出現 !!

3m 級対人ゴーレム "19" 出現 !!

次々と、大地から姿を現す土人形の兵団。

——否。

それは、ただの土くれではない。サイバー化された、ゴウレムの兵団。

【アカシャ】：分心 1、トループ 4*29 体……。

【RL】：200m 級のは、29 体相当の 1 体ね。

「此方はいいぞ」

「ふん。また大砲に吹き飛ばされるのではなからうな？」

「黙れ」

それを横目で眺めて、イヤーゴが懐より取り出す——真っ黒な本。違う。炭のように焼け焦げた、本。

「"空の破滅"。焔が如く燃え盛れ。汝が九つの鍵、我が名において焼き尽くす」

目を見開いて、タロットをばらまいた。六芒に展開されるタロット。

「汝、我が前において最早未知にあらず !!」

「汝、我が畏るるに足らず !!」

「汝、我が敵の恐怖となれ !!」

ゴウ……ッ

噴出する焔が、爆発する火柱となる。火柱を裂き、顕れる——。

【NIGER】：1. コンストラクトタトゥ：準備。

M. < 自我 >< 永生者 >< コネ：イヤーゴ >< 交渉 >< 分心：TEINN>< 分心：SINDR>

【感情】7+8+5+CK=30

【天社】：二柱、だと？

【RL】：いや、そっちは、システムのなギミック。

焔を纏う荒神。周囲の氷原が、一瞬にして煉獄と化す。

まるで偉丈夫のように気高い、人型の機神。融解した、元が何かもわからない金属で出来た鎧を纏う。

そして。

イヤーゴの前に現れる、九つの錠がかけられた箱。

「SINDR. レーギャルンを開けよ」

【分心：SINDR】：1. ガルーダ。

【雲外鏡】：ここでガルーダだと？

M.< 教授 >【理性】14+S5=19、アデプト：教授 19⇒24。

M.< 教授 >【外界】10+D10=20。

M.< 教授 >【感情】12+CQ=22。

< 白兵 >3Lv⇒イヤーゴ。

< 射撃 >3Lv⇒イヤーゴ。

< 操縦 >3Lv⇒イヤーゴ。

【RL】：よし !!

【雲外鏡】：なん、だと。

【天社】：きじゃない。この RL きじゃない！

【アカシャ】：おおおおおう！

【RL】：箱が開く。中から突き出す、一本の剣。

それをつかみ出し——高く、跳躍。

「Ira!!」

< 自我 >< 分心：Ira>【外界】5+1+5+D8=19

A. ブランチ：ネクロマンサー

ゴウッ……。

虚空にて、燃え盛る炎を喚起。それを足場に、さらに跳躍。焔を纏い、召還された機神——"TEINN" へと吸い込まれていく。

【RL】：は——。前準備完了——。

説明。空の破滅 (NIGER) がエニグマを呼ぶ。呼ばれたタタラエニグマがイヤーゴに一般技能をゴスゴス教授する、以上 !!

【アカシャ】：なんという増強。く、手強い……！

【雲外鏡】：ドーピングコンソメハントー。

【RL】：『——では、これより。"白銀宮" 攻略を開始する。私が指揮を取る、スカルピア、兵団で方位しろ。ヴィオレッタ。結界を維持。ドゥルカマラ。コマンド。後方に突入し——』

「あー、申し訳ないめっそうもない、それはできないかと思われます」『なんだと？』

「——来ますよ？ 相手してさしあげましょう、まがい物」

氷原——いや、今や煉獄の園と化したそこ。"黎明の海星" の軍勢の中に。

黒い影が、切り込んだ。

広がる黒い外套は、翼の如く。

伸び上がる布が、彼の手の内でまるで剣のように固定される。

「後はお任せいたします。いやあ——、マスター無しで来るとは、流石に思いませなんだ、愚か驚愕実に甘露ッ !!」

にやりと笑った悪魔が、跳躍。飛来した人影を、空中で迎撃する。

ガッ—— !!!

【天社】：おい。MORI。

【雲外鏡】：ちんだ、だと？

— —

SceneEnd...

【RL】：MORI さんが、白兵 1 で頑張った。

【アカシャ】：PC1。

【天社】：おい、成長しろよ。

【RL】：そのうちするって。あ、宣言忘れてた。まあ次すればいいか……。

【天杜】：ん？

【RL】：空の破滅 (NIGER: ニガー) が、※パントマイム宣言するの忘れた。GUEST の名称整理しとこ。

・空の破滅の精霊⇒ NIGER。

・空の破滅が呼んで放置したタタラエニグマ (戦闘には参加せず) ⇒ SINDR。

・空の破滅が呼んだ機神⇒ TEINN。

【天杜】：把握。

【RL】：スカルピアがよんだゴーレム兵団の一番でっかいの⇒ TAROS。

こう。

もう判つてると思うけど、空の破滅はスルトな。レーヴァンティンでもいいけど。

【天杜】：もち (MORI) がちんだ。

【RL】：まだ生きてるって。天杜がどうするか、このシーンで決まる。

【天杜】：まじで。どうしよう見捨てようかな……。

【アカシャ】：解雇宣言。

【RL】：ボーン。

● CLIMAX#2: The Codex Regius

◎ Scene Card : HIRUKO (劇的な変化)

○ Scene Player: ALL

・ Stage : " 超弩級城砦型機神 : D u x " 大広間 / White

† BGM : 『 ステラ / TALES OF LEGENDIA O.S.T. Track06 』

窓の外に、一瞬火柱が見えた気がした。

それでもパーティーは続いていく。もう終わりの時間が近いというのに、終わる気配を見せずに。

【RL】：というわけでパーティよ。好きに動け！ ラストタイム。

【雲外鏡】：海星は消えて、ORDO が残ったんだよね。

【RL】：うん、ORDO はいるよ。

【天杜】：雲外鏡とORDOのダンス、だと……。

【雲外鏡】：「それにしても、折角此処まで来たのに帰っちゃうなんて、勿体ないと思うなあ」

サンタ帽にタキシードという珍妙な組み合わせで咄くのは、雲外鏡。咄きの対象は、先ほどヒロインをエスコートしてきた黒幕だ。

「お目当ての彼女もすぐそこにいるだろうにね？」

【RL】：敵意持てると、入れないんだもん……。

【雲外鏡】：大丈夫。恋心は敵意じゃない、もっとおぞましい何か。

【RL】：オタワ。

【天杜】：天杜は壁の花つてる。ちょこーん。

【雲外鏡】：おい、加われよ (笑)。

【天杜】：マジで。

【アカシャ】：MORI さん飛んでいったからなあ……。

【RL】：「届けにきただけなのでしょう」

瞑目したまま、楽団の演奏や歌を聴き続ける ORDO が代わりに答える。

【アカシャ】：「——ここには、火のイヤーゴ達が、来るから……？」 ORDO に。

【RL】：「さあ？」 くすくす。

【アカシャ】：「——…… (変な感じ……)」 傍にいた雲外鏡と。ORDO を交互に見て——。

【雲外鏡】：「ふふ。本人に聞いて見ればいいよ。ね？」

【アカシャ】：「本人に……？」 雲外鏡を見遣り——。

【天杜】：こちらを見る目に振り返る。柔らかく、微笑んだ。社交的な笑顔だ。

【雲外鏡】：「そ。どうして壁の華なんかやってるのかな？、てさ」くすり、と。「パートナーはどうしたんだろうね？」

よし、ごう、天杜の親友アカシャ！ サンタさんは、生暖かくくターキーかじってるよ。ごめん、うそ。邪魔にならなそうなら加わる。

【アカシャ】：く、加わってー！ (笑)

【雲外鏡】：ういうい。アカシャから積もる話を振るんだ (笑)。サンタは、的確な距離を見積もって間を調整して待機してるよ。サンタ的に。

【アカシャ】：サンタ的に！

【天杜】：いいな、ターキー、欲しい。

【アカシャ】：「……——アモリ」彼女を見て——。「1人、なの？」彼女の元へと歩み寄る。

【天杜】：「ん？」 柔和な笑顔。「ううん、もう一人いるよ」

【アカシャ】：「姿が見当たらないわ」 キョロキョロと探す

【天杜】：「ここ」

【アカシャ】：「ここ……？」

【天杜】：どこに隠し持っていたのか鱗状の表紙の本を取り出す

【アカシャ】：「——COR」

【天杜】：「そう。さっきからちょっと黙ってるけど、気が向いたらしゃべると思うよ。最近、良くお話してくれるようになってきたから」そう言って、胸に抱えなおした。

【アカシャ】：「……久しぶり、といえいいかしら……？」戸惑うように。「あなたがアモリのパーティーのパートナー？」

【天杜】：しかし、その本は喋らない。話す時ではない、と思っているのかはたまた眠っているのかはわからないが。

RL 不在的な意味で。(※ 丁度 RL がご飯休憩に行っていた)

【アカシャ】：あ、なるなる。

【天杜】：一応、毒王を連れてきたぐらいな感じかな。自分も出たかったけど、彼女にパーティーを見せたかった。

【雲外鏡】：なるる。どめきはしてるんだろ。

【天杜】：連れて来てるかもしれないな。でも喋れないそうだよ、うーうーとしか。

【アカシャ】：ふむふむ。

【天杜】：「違うよ。パートナーではないよ」

【アカシャ】：「……——」

その様子に、どことなく、寂しさを覚えて、首を傾げる。

【天杜】：「ほら、エンジュ。雲外鏡と踊ってきたら？ 今日日はクリスマス・イヴだよ。それとももう、踊った？」

【アカシャ】：「いいえ、まだ……」首を振って。

【天杜】：「じゃあ、踊っておいでよ。もうすぐ、この夢のような時間が終わってしまうから」

　　といって、窓の外を見る。夢の様なというわりには、浮かない表情

【アカシャ】：ちらりと、ターキーをかじる雲外鏡を見遣る。

【雲外鏡】：齧ってるー！？

【アカシャ】：え、囁っているんじゃないかって？！

【雲外鏡】：わんだふる・さんた・とーす！　ひらひら、と手を振り替える。

　天杜が知らない情報ってなんだっけ、アカシャアーツまわり？

【天杜】：んー、ORDO と雲外鏡が無関係ではない、ということと、アカシャがNORNIRと言うことは知ってる。

【雲外鏡】：アカシャが切り札になりうるって情報は、渡しときたいね。アカシャってまだ、DLされてないっけ。

【アカシャ】：されてるー。

【雲外鏡】：今されたら、また違うのかな？

【RL】：一応内容情報は同じよ。

【アカシャ】：「——　雲外鏡に頷き返す。　「アモリは、アモリが契約している魔導書と、また遠くへ行ったのかと思ったわ——」アモリに視線を返す。

【天杜】：「螺旋断筒佚書と？」　やや硬質な響きを含む声。

【アカシャ】：「——ええ、ここは、黎明の海星に、後数刻で、攻撃をされる」

【天杜】：「帰るからお別れたの」

【アカシャ】：目を見開き。　「——帰る、戻るのが……？　お別れて」

【天杜】：「うん、もう、必要無いから」

【アカシャ】：「……そんな……」　ずきんと傷むような顔して——。

【天杜】：「ごめんね。魔導書のアカシャに言う言葉じゃなかったね。許して、くれる？」

【アカシャ】：「——……」　アモリに視線を合わせて、「契約は——とても、大事なこと。それがなければ、私達は、ただの、“情報”だから。契約は、息吹を与えること——命を吹き込むようなもの——」

【雲外鏡】：らいふ。すとーりむ、だと？

【アカシャ】：「ゆるす、も何も、その言葉を口にしたアモリと——螺旋断筒佚書が——番傷ついているのではないかしら」

【天杜】：「……有難う」

【アカシャ】：「——どうして、感謝の言葉を口にするの」　困ったように、笑った。　「アモリ、あなたは、戻ってどうするの？」

【天杜】：「ワタシ？そうだね、今まで通りだよ。何も変わらない」

それは、諦観にも似た、星女の顔。

【雲外鏡】：すれ天杜になってる。カップルそろってすれちゃってるぞ！　がんばれ、アカシャ。

【アカシャ】：ツツツン状態に！　　が、がんばる。

【雲外鏡】：魂を伝えるんだ！

【アカシャ】：魂を！

【雲外鏡】：魂を！

【アカシャ】：「嘘」

【天杜】：「そうだね、でも変わらないんだよ」

【アカシャ】：「何故？」　じっと見て。

【天杜】：「そうだね……、それはワタシが多分、ただの女の子だっ

たからだよ」

　煌びやかな、優しい音楽の流れるパーティー会場を見る。華やかに花を添える、乙女達。

【雲外鏡】：ガールズトーク。

【アカシャ】：「ただの、女の子だから……？　何にも出来ないって、思っているの……？」

【天杜】：「ううん、そうだったらいいなって思ってる」

【雲外鏡】：すれ、てる（笑）。

【天杜】：「エンジュは一体、ワタシに何を言わせたいの？」　周囲に向けていた視線を、彼女に向ける。　「ここを見捨てて、MORI と逃げるって言ってほしいの？　それとも、此処を護るためにMORI と戦うって言ってほしいの？」

　そう言ってから息をついて。

「どちらにしろ、次神を喚ぶと、ワタシはおそらく死ぬの」

【アカシャ】：「……え」

【天杜】：「このまま逃亡しても死ぬ。戻っても死ぬ。……どれがいい？」

【アカシャ】：「……アモリ……」

【天杜】：「ちなみにパートナーは、自分で契約者を死なせるのが嫌。でも、そのままだと死ぬのに生きるとだけ無責任な事言うの。解約のために自分が死ぬから生きろって。だったら、ねえ？　だったら」

【アカシャ】：「だったら？」

【天杜】：「余りに想像通りの反応で、笑いを乗り越えてどうしようもなかったけど、帰るのが、一番かなって思うじゃないか」

【アカシャ】：「誰にとって。誰にとって、一番なの？」

【天杜】：「……」

【アカシャ】：「アモリ、私は……アモリがどうしたいのか聞いたかったの、本当の。私は、ここを護るから。アモリが、本当に、望んで、黎明の海星に戻ってしまうのなら。それでも、——……あなたとは、闘いたくないって——思ってる。でも、本当の気持ちを……っ　！」

【RL】：「はいはいはい。楽しんでる？」

　　がっ。二人の肩を、その両腕で抱えて、PAXが、白銀に光る仮面で二人を見た。

「なーに。深刻？」

【天杜】：「うん」

【RL】：「アモリちゃん、あんなに來たがってたパーティなのになんでそんな顔してるのかなー？　アカシャちゃんほらほら、飲んで飲んで。女の子が辛い顔してるのはよろしくないよお」

　とても、襲撃を受ける直前の城の精霊とは思えない。

【アカシャ】：「PAX——」

【天杜】：「そうだね。うん」

【RL】：「良く戻ってこれたねえ」

【天杜】：「うん……よっぽど、自信があるみたい」

【RL】：「さて、何が目的のかな」　にやにやと笑い。

【天杜】：「ワタシは。……」　アカシャを見て、視線を戻す。

【アカシャ】：「……」　その様子を見守るように見続ける。

【天杜】：「PAX、約束通り踊ろるか」

【RL】：「喜んで」　アモリの手を、引いた。

【アカシャ】：「……アモリ……」

【天杜】：笑みを浮かべて、アカシャに視線を送る。

「ほら、終わっちゃうよ。雲外鏡と、ね？」　　といって、引かれて行く。

【アカシャ】：真っ直ぐに、彼女を見てその、背に、言う。
「——諦めないで。——ヒトは、その心の蔵の鼓動が止まるまで、生き続けるのだから。その前に、自分から、止めないで」
それは、“少女”の言葉。“記録”を参照した“女神”が紡ぐ言葉——。

【雲外鏡】：ほろり、せつない。

「——アモリは、私が、“NORNIR”だと言うことを知っているでしょう？ 私は……」

と、とりあえず直球で言う。

「……あの時から織りなされる」

【雲外鏡】：アカシャががんばれ、ちょうがんばれ。

【ＲＬ】：へらへら。

【アカシャ】：「この、物語の、“鍵”となるかも知れない。でも、それで、運命の扉を開くのは、あなたの想い、だから——！」
そう、叫んで。その背を見つつ——雲外鏡の元へと向かう。

つ、通じただろうか……。

【雲外鏡】：魂の慟哭！がんばった！ 雲外鏡じゃああはいかない。
相手を想えないから。

【アカシャ】：う、うい……今の状態では精一杯でした……。

【天杜】：「……、PAXはターリアとホントウは踊りたいんだよね」

【ＲＬ】：「躍れるならねえ」

【天杜】：「ねえ。ターリアがほしいの？ VOLVAがほしいの？」

【ＲＬ】：「酷な質問するねえ」

【天杜】：「それはね、多分。ワタシも代替品だから、知りたいんだよ」
最初のステップに踏み出せる位置に脚を置く。

【ＲＬ】：「ターリアしか手に入らないからターリアが欲しいね。けどね、今VOLVAが生き返っても」 脚をそろえ、アモリの腰に手を回す。「俺はターリアがいいなあ」

【天杜】：「言葉を交わしたことがなくても？」

【ＲＬ】：「言葉で好きになったわけじゃないからなあ」

【天杜】：「……」

【ＲＬ】：「アモリちゃんは面倒に考えすぎ。誰かに何か言われたわけでもないのにさ」

【天杜】：「そう？ そうかな」

【ＲＬ】：「俺からすればね。世界はいっぱいある。正義も神も世界も判断基準も悪も好悪も。その辺、もっとファジーにやるべきだと思うよ、俺あ」

つ、と脚を動かす。音楽に合わせ、床をすべるように。

【雲外鏡】：しゃーるういーだーんす。

【天杜】：「ファジー」

【ＲＬ】：「空気読もうぜってこと。今日のアモリちゃん、ちょっとだけやな女だよ。男から見たらね」

笑顔は見せず、に、と笑う。

【天杜】：「うん」

【ＲＬ】：「あのパチモンは相当駄目な男だけどね、男から見たら。けど、二人ともほんとには幸せになりたいんじゃない？ 皆で幸せになるよ。——第三者の男から見たらね。そう思うわけ」

躍る。身長差をカバーするように、どこかゆっくりと。

【天杜】：「ワタシ」 首を振る。「相談も出来る相手がいなかった。してもしょうがないって思っていたし、何も変わらないって思っていたんだ」

【ＲＬ】：「うんうん」 辛かったねえ、と躍る。

【天杜】：「ワタシは何かの目的に作られて、何かの目的のために死ぬ。これまで、同じ思いをしてきた星女達の、ワタシ達の……、……多分私たちは、唯一になりたかった」

【ＲＬ】：「難しいねえ」

【天杜】：「まあ、そんなわけで、もういいの」

【ＲＬ】：「頑固だねえ」

【天杜】：「だから、無血開城を提案に来たよ。否定されるのわかってて来た」

【ＲＬ】：「星女にはスベアがいるよ」

【天杜】：「うん、知ってる」

【ＲＬ】：「後、黎明の海星が望んでるのは戦闘だよ。機神が破壊されることも条件の一つだから。」

黎明の海星は戦いたがっていたのだった……。

【アカシャ】：機神、破壊されなければならないのか……。

【天杜】：「知ってる」

【ＲＬ】：「じゃあなんできたの？」

【天杜】：「戦って欲しく無かったから」

【ＲＬ】：「ごめんよ。それはちょっと。そろそろ俺は舞台から降りる頃なんだよ。ヘキサの2、3人は道連れにね」

【天杜】：「莫迦だよ」

【ＲＬ】：「君もね」

男の魔導書は莫迦。

【天杜】：「残されたターリアが喜ぶわけない」

【ＲＬ】：「ターリアは俺のことなんか知らないんだよ？」

——笑う。

「哀しまない」

【天杜】：「知らなかったら此処に呼んだりしない、私を」

【ＲＬ】：「さあーねえー」

【アカシャ】：切ないな……。

【天杜】：「それに、白銀宮って言葉を知ってた」

【ＲＬ】：「ふふ。気付いてるんだろう？ 俺は“そうじゃない”ほうが都合がいいの。んで、君は莫迦が己を通すために必要な力を放り捨ててきた。だから君は俺を止められないよ。OK」

【天杜】：「女は、いつの時代だって、武力以外で戦うんだよ」

【ＲＬ】：「ワオ、怖い」

【アカシャ】：武力、以外……で……。握り拳を引っ込める。

【ＲＬ】：「——三番から十五番、砲塔旋廻」

小さい声で呟く。

【アカシャ】：……始まった。

【ＲＬ】：「見えたよ。大分早いね」

【天杜】：「もう？」

【ＲＬ】：「言わないでも判ると思うけど、メッセージーごと吹き飛ばす作戦だとはおもうよ」

【天杜】：「うん」

【ＲＬ】：「十八番から五十番、星屑散弾装填。……俺をどうする？」

【天杜】：目を閉じる。そして開く。

「ワタシが死んでも、貴方達を生かします」

【ＲＬ】：「ありがとう。じゃ、早いもの勝ちだよ。——撃ち方始め」

——ド…オン……。

遠く。砲撃の音が響いた。

【天杜】：始まっちった。

【雲外鏡】：音が小さい！

【天杜】：なん、だと？

【ＲＬ】：アモリの手を、離す。

「じゃ、前線行つて来ます。止めたかったらどうぞ。あ、ターリアお願い。はいはい皆さん、パーティーは終わり！」パンパンと手を叩く。「戦場いくよー！」

【天杜】：「判った」

よいしょって、ターリアを引きずった。

ターリアごと前線行つてやる。

【アカシャ】：え。ターリアも、一緒？

【天杜】：ターリアごと行つてやるぞー——！

【アカシャ】：ちょ（笑）。眠り姫を誘拐……！

【ＲＬ】：おまえ……。

「ちょっとアモリちゃん、ターリア街に残しといてよ」

【天杜】：「お断り」

ずるずる、とひっぱる。

【ＲＬ】：「むう。人質とは卑怯な……」

【天杜】：「魔導、書と、か、み、魔、術、師は」ずるずる。「三位、いつ、たい」ずるずるずる。「勝手に護られて勝手に死なれて、気持ちのいい人なんていない。彼女を、この世に呼んだのなら……渡さないというのならサイゴまで自分の手で護ってごらんよ、"白銀宮の歎き"」

【ＲＬ】：「だから君に預けようとしたのにー」

【天杜】：「ワタシ達は、何も感じない道具では無いんだよ。ターリアとして大切にするというのなら、サイゴまでして！」

【ＲＬ】：「むーん。引き渡すわけにはいかないよ？」

【天杜】：「じゃあここを潜り抜けて逃げて」

【ＲＬ】：「逃げるわけじゃないじゃない。包囲されてるのよ」ひらひらと手を振る。

【天杜】：「キミが望めば」と、雲外鏡を見る。

【雲外鏡】：「くすくす。随分と世渡りが上手くなりましたね、星女様？」

ワイングラスに真紅の液体を並々と。

【ＲＬ】：「——D u xは、陣地から動かすと極端に防御能力が低下するよ？ 脚もヤバいくらい遅い」雲外鏡を見ながら、少し声を潜めて言う。「後——こっちの陣地の砲撃が全部弾かれてる。ちょっとやばいね」

【雲外鏡】：「流石は未知殿かな？」少女を伴い、微笑む。

【ＲＬ】：「どうやったのかねえ。さて、じゃあ魔術師の取引という」

P A Xが諦めたように、再び椅子に座った。既に、パーティー会場に人の姿は無い。

【天杜】：ORDOは？

【ＲＬ】：いるよ。雲外鏡を、にこにこしながら見てる。

【雲外鏡】：にやにやの間違いだろ。

【ＲＬ】：「1、ターリアの生存。2、アモリちゃんの生存。3、アカシャちゃんの生存。供出できるのは陣地、小型機神の兵団と、D u x。俺を納得させてくれる？」

【雲外鏡】：天杜とアカシャを見る。

——条件は足りてる？、と。

【アカシャ】：白の液体が注がれたグラスを手にも、雲外鏡の傍らに

立つ——。

【天杜】：「4つつ目、P A Xキミとターリアの脱出ね」

【アカシャ】：「——……ええ」アモリの、その言葉に頷く。

【ＲＬ】：「それをいれると結構難しくならない？」

【天杜】：「それが無いと意味が無いんだよ」

【ＲＬ】：「俺が提案する方法はね、君達に、この街に住む魔術師、アヤカシと一緒に陣地——街だね——に残ってもらって、俺がD u xで打って出る手だよ。この機神を自壊させれば撃退くらいできるとおもう。あっちの目的はこの城だしね。——で、もう一つの目的であるターリアを、その間にどこかに連れ出して欲しいんだけど」

包囲網くらいブチ破ってくるからさ、と明るい調子で。駄目？と首を傾げる。

【雲外鏡】：「僕はそれでも構わないよ」くすり、と。「それをやりやすくする力だってあげられる。でも、彼女達が何て言うかな？」

【アカシャ】：「機神が破壊されてしまって——あなたは無事でいられるの……？」と疑問を呈す。

【ＲＬ】：「まー、フィードバックくらいは来るだろうけど、機神を喪うことはイコールで死ではないよ。魔導書としての力は喪うだろうけどね」

【アカシャ】：「——出来る限り、避けたいわ……」ごくり、と唾を飲み込んだ。

【ＲＬ】：というわけで、方針決定タイム。わかんないところあったら、PL 質問して！

【天杜】：はい。データ的には専用機がついてなきゃ操縦できるとおもうんだけど、D u xは操縦できますかー？

【ＲＬ】：駄目。トループのほうの神なら、操縦できる。

【天杜】：D u xは分心だけど、自立稼働はできますかー？

【ＲＬ】：出来るけど、D u x自体はそんな強くないよ。アヤカシエニグマだからヴィークル戦闘につかえる特技が少ない。後、代理派遣が無いからエニグマだけ、トループだけで表舞台に出すことができないのに注意。データ的にP A Xがやろうとしているのは、アモリ達をシーン外において守護神で皆を逃がすって言うことだから。データのなカット侵攻の説明先にしたほうがいいか。

「……じゃ、これを見てもらおう」

トンと、机を叩く。

【アカシャ】：御願います

【雲外鏡】：ふふり。キャストもP Lも参謀するよ。

【天杜】：雲外鏡に、秘策あり、だと？

【雲外鏡】：え。考えろというなら考えるけど、どっちかといえば、軍師りたいな！ 天杜の決断みたい。

【アカシャ】：ぐんしー！

【天杜】：え。天杜は正直、自分が犠牲になる気ですけど……。

【アカシャ】：犠牲！？

【天杜】：M さん曰く、四つ目の神業をなっ！

【アカシャ】：4つ目の神業？

【天杜】：CASTの命のことらしい（笑）。

【アカシャ】：ええええ！

【雲外鏡】：アカシャがそれを止めるなら、雲外鏡はしたがるさ！

そんで、全員の願いが提示されるなら全部が矛盾しない道をだしましょう！

【天杜】：あ、ちなみに進んで死にたいわけじゃないから、そこは心

配しないで！ただ、条件がきつそうだから楽観できないって意味だよ！

【アカシャ】：うい。こう、キャストとして、死に行くつもりになっているということですね？アカシャはアモリに生きてもらいたいですよ！

【RL】：机から、光が浮かび上がる。それは、外の光景だった。

【アカシャ】：おお。

☆白銀宮攻防戦

勝利条件は二つ。

(キャスト達の納得する人物)が、【離脱ポイント】に到達すること。

(全敵性ゲスト)が、戦闘不能 or 離脱すること。

・エンゲージ

西←【離脱ポイント】() () 【陣地】() () () 【離脱ポイント】→東※ ()=エンゲージ

【RL】：西方向には3距離、東には4距離。

【天杜】：西側になんかいそうだなあ。

【アカシャ】：ですね。

・【離脱ポイント】への移動が【成立】したキャラクターは、シーン外に離脱できるものとする。

・【陣地】には【王国】が設定されており、"PAX"が認めた人物は全ての達成値に+3の修正を受けることができる。

・【陣地】には砲台が設置されているが、ゲストには一切効果がない。達成値は14固定。

・【陣地】にキャラクターが誰もいない場合に、敵ゲストが【陣地】への移動を【成立】させた場合、【陣地】は陥落する。その後一切の効果は受けられず、【陣地】内部に匿われたエキストラ・リアクション能力の無いゲストは全て死亡する。

☆調査フェイズ

全キャラクター、<知覚><社会>アストラル><自我>のどれかで判定が出来る。

判定回数は一回のみ。

エンゲージを指定し、そこに存在するゲスト・トループを知ることができる。

目標値は制御値とする。

【雲外鏡】：楽なのは、スーパーチャージャー。

【天杜】：移動できるんだっけ。

【雲外鏡】：うん。3段階移動。

【天杜】：スーパーチャージャーを付与すれば、PAXにはさっさと出てもらえるか。

☆出撃フェイズ

【陣地】から出撃するキャラクターを選択する。

出撃しなかったキャラクターは戦闘による被害を一切受けないが、イニシアチブフェイズに【登場判定】を行わなければ登場できず、その判定はプロットを消費する。

☆戦術フェイズ

実際のカット進行を行う。ただし、調査フェイズで居場所の判明しなかったキャラクターは居場所不明。

<隠密>を組み合わせずにアクションを行った場合、そのキャラクターの居場所が判明する。

【天杜】：うーん、ここまで来ると、MORIを呼びたくなってくるな(笑)。

【雲外鏡】：ほほう。……、にんまり。

【天杜】：ただほっといたら一人で、ぴゅんしうそだ。

【雲外鏡】：アモリさー。

【天杜】：ん？

【雲外鏡】：A.T.G.C 乗らない？

【天杜】：なん、だと？

【雲外鏡】：うふふ。

【アカシャ】：お、おお！

【RL】：お互いにコネ持ったりゃ機神譲渡認めるよ。ただし、ウォーカーの乗り換えはメジャーアクションとする。

【天杜】：そっち URITE に乗るの？

【雲外鏡】：うんにゃ。我に愚策あり。

【天杜】：愚作、だと？

【RL】：愚策かよ。

【雲外鏡】：今回はうーりてには一回休みしてもらおうかと。乗れば天杜が死ぬしね。天杜・MORI 二人の確執は、次回まで持ち越されることになるかも。

【RL】：な、んだと。

【天杜】：次回も、お楽しみにねっ！

【アカシャ】：持ち越された！

【雲外鏡】：物語的にもデータ的にも、神なしでMORI 救出は難しいだろうからありかなー、と。

【天杜】：アカシャの神に天杜がのるのは、良いよ。面白そう。

【雲外鏡】：ぎりり。

【アカシャ】：ええ(笑)。

【RL】：ほんとに契約者以外、乗れないんだろうけど、アモリはちょっと特殊だからね。

【雲外鏡】：じゃあ、あとでアレ渡しますね。

【RL】：アレかよ。

【天杜】：きたあ。

【RL】：……アモリもカドケウス装備できないな。

【雲外鏡】：《不可触》と一緒に。

【RL】：神業使うなら、全く問題は無かった。ちなみに、このまま戦うのがRLの想定ね。その場合、ゲストが何人か犠牲になることが想定されてる。逃走は実は想定にいれてないよ。後、離脱ポイントについた瞬間、射程内にある存在する生き残ったゲストの全ての神業がとんでくるとして。

【雲外鏡】：がくがく。

【RL】：流石に**自爆守護神**は、する奴としない奴がいる。

【天杜】：**自爆守護神**ばっかやないか。

【RL】：ここ大事なのだけど、離脱しちゃったキャラは一部の神業以外使えないから。「離脱したけど神業で登場！」はOK。「神業で離脱！」もOK。「舞台裏から神業！」は一部を除きNO。一部ってわかるよねえ。神出鬼没とかだよ。(笑)

【天杜】：えーわかる敵対GUESTの神業を書き出そう。【イヤーゴ：真実 守護神 タイムリー】。

【RL】：今真実でよかったとかいった奴前に出る。

【天杜】：【おしゃべり悪魔さん：霧散 守護神 後何かわからん】。
【ヴィオレッタ：腹心 神のお言葉 守護神】 こいつ、自爆はしないわ。自分死ぬもん。ゴスペルが来ると思っている。【土の人：守護神 神のお言葉 天変地異は使用済み】。

取りあえず、イヤーゴのタイムリーさっさと吐かせたい。
ORDOは魔導書なら、【アヤカシ マヤカシ 何か】。

【RL】：ORDOここにおるで。

【天杜】：うん、妨害してくるならってこと。

【アカシャ】：ハイランダーっぽい、イメージ。

☆調査フェイズ

† BGM：『 埋火 / Harmonia 』

【RL】：あーデータやべえ……おもてえ……。調査フェイズの「索敵」はプロット消費でできるよ。メジャーアクションね。

【天杜】：当たり前だ！

【雲外鏡】：ういうい。

【天杜】：ふ、<集団催眠>叱咤激励>の時代が来たようだな。

【雲外鏡】：TUEEE。んで、脱出していく？ 殲滅していく？

【天杜】：厄介な神業持ってる奴を吐かせつつ、PAXたちを逃がすかな、と考えてる。メインは逃がす事。

【RL】：PAXはAR2の脚遅い子であった。

【雲外鏡】：ういうい、PAXに分心教授した場合そのデータの作成はRLがやる？ こちらの希望が通る？

【RL】：PAXに交渉するだろうし、希望は通るよ。

【天杜】：雲外鏡、組織を裏切る事になっちゃうけど大丈夫？

【雲外鏡】：え。雲外鏡は戦わないから、裏切らないヨ！

【RL】：こいつ……。

【アカシャ】：あ、そうか！(笑)

【天杜】：まじで？ ああ、なら《不可触》は要らないよ。カドケウス装備しないから。どうせ、元力使わないし。アカシャにリアクション使ってもらう方が良い。

【雲外鏡】：使い道ないからうけとって欲しいな(笑)。

【天杜】：いや、サイゴに裏切ってませんよ面で見えんとおもうよ！
もしくは、PAX逃げた後の後始末に使ってほしい。追いにくなくと思うし！

【雲外鏡】：なるる、らじゃ！ それはそれとして、アレは渡しますね。ふふふ。(悪そうな笑い)

【アカシャ】：あれって……(笑)。

【天杜】：ウン、受け取ります。ウフフ。悲鳴あげるけど(笑)。

【雲外鏡】：見た目は宝石っぽくしてるよ！ DQ3の魔法の弾みたいなん。

【アカシャ】：分心？

【雲外鏡】：えーと。じゃあ、PAXは逃げね？

【天杜】：うん。彼の神業は自衛に使ってもら。問題はこのRL、ターリア護る為っていいながらPAXに自爆守護神させそうなことである。

【アカシャ】：……。用心しないと……。ですね。

【天杜】：うん。

【RL】：おイイ。

【天杜】：違うって言えるのか。

【RL】：ニラッ。味方GUESTのデータを、簡潔に提示していくよ。

▼"白銀宮の歎き" PAX

アラシ アヤカシ マヤカシ

<※フルファイア> <※フォートレス> ☆<パワーファイト> <ドッグファイト> <フォールンエンジェル>
<ブロック> ☆<ヘッドオフ> <クイックリベア> <魔器の一族> <永生者> <眷属> <分心> ☆<隠心>
> <結霊> <実体化> (☆がついてるのは5Lv以上)

▼Dux(魔器—8Lv、オービタルベース魔器。グスタフ+護法童子を5門搭載、AR1で5発射撃)

▼PAX(援護系能力0)

▼"エインヘリヤル"(魔器—4Lv、ファルコン魔器一。ファルコンと灼光、一角槍を標準装備。21体トループとして扱う)

【RL】：護法童子がついたグスタフが5門あるよ。エインヘリヤルは協調行動させないなら独自稼働するよ、指示は出せます。グスタフ砲とか、Duxの砲撃も指示してください。PAXが動かします。だがプロットはこっちだ——。ちなみに、索敵すりゃ判るけど、陣地の砲台はまるきり役立たずになってる。

【雲外鏡】：拠点は住居？ ヴィークル？

【RL】：住居。

【雲外鏡】：移動した場合中の人はみんな移動？

【RL】：移動。

【雲外鏡】：あいあい。

【アカシャ】：〈隠心〉使えるのかー。

【雲外鏡】：PAXに与えた分心は、<運動>1 <自我>3 <スーパーチャージャー>1 <※パントマイム：引き寄せ>1 <アダプト> 自我、で。分心が一気に離脱ポイントへ移動しつつ、白銀宮を引っ張る仕組み。ただし、1スートだけでなんでリアクションされたら終わるから、達成値あげまろう(笑)。

【RL】：げー(笑)。

【アカシャ】：引き寄せ！なるほど、凄い。

【雲外鏡】：あ、ごめん。むりだ作り直し。疑似餌の効果ちがうっぽいな。カウンターグロウで、疑似餌ってどうなってるかしら？

【RL】：ん、ちょっとまってね。交渉。メジャー。対象単体。超遠。目標値制御値。対決は運動自我。対象を一段階移動させる。移動先はあなたが選ぶ。移動そのもので被害を受ける場合はできない以下

略フレーバー。

【雲外鏡】：一番安い義体っておいくらだったけ？

【ＲＬ】：シンプルス の 5 じゃね？ 中古品いれて 1。

【雲外鏡】：性能ぶりーず スロットだけ

【ＲＬ】：汎用 1 のみ、中古品いれると 0。

【雲外鏡】：せんきう。コ・カールいくらー？

【ＲＬ】：3ー。

【雲外鏡】：<運動> 1 <自我> 2 <※パントマイム：引き寄せ> ジェットブーツ、シンプルス、コ・カール、ＪＪＦ、ファッション：仮面、出来たー。

【天杜】：ふぁ、ふぁっしょん！

【雲外鏡】：1 点あまった（笑）。

【天杜】：おそろい。

【ＲＬ】：3 段階移動かぁ、ちゃんと性能要求は満たしてるな（笑）。

【雲外鏡】：雲外鏡は直接戦闘力ないので、今回は援護しようとおもうけど、いい？

【天杜】：うん、やれるだけやってみる。

【ＲＬ】：そういえば陣地と、D u x はイコールじゃないからね。逃亡する場合、陣地の中に人残しとくと、多分死ぬよ。

【雲外鏡】：どっち逃がす？

【ＲＬ】：ただ、D u x が、いっぱい人積めるよ。オービタルベース相当だから。

【雲外鏡】：D U X を出撃させないで残ってもらって、一括で逃げてもらう？

【アカシャ】：陣地＝オービタルベース？

【ＲＬ】：No。陣地の上にオービタルベース（ヴィークル）＝D u x がある。陣地はアーコロジーで、そこが、王国。

【アカシャ】：お、ういうい。

【ＲＬ】：キャストの初期配置は陣地エンゲージな！

【雲外鏡】：あいあい。よし、D U X も逃げてもらおうか。P A X はターリア大好きっこだから、俺ら犠牲にすることもいとわないと信じる。

【ＲＬ】：エキストラは以下の 3 つ。住人（魔法使い、自我達成値 10）。アヤカシ（アヤカシ。自我達成値 15）。ターリア（全ての制御値が零）、こう。

【雲外鏡】：陣地に全部つめこめる？ 夢とか。

【ＲＬ】：オービタルベースに乗せてあげてください。夢も希望も詰め込めますが、陣地に残していくと、貴方達が逃げた後に制圧されるおそれか。

【雲外鏡】：はははは。

【ＲＬ】：構わん、だと？

【雲外鏡】：ちゃうねん。

【ＲＬ】：ほう。

【雲外鏡】：いいかい。飛ぶのは D U X じゃなくて、城。むしろ氷結湖。

【ＲＬ】：なん…だと？ 陣地ごと移動、だと？ アボートかぁ。

【天杜】：ちきゅうーうーはまーわー一。

【雲外鏡】：とーさーんがー、のこしたー。まぁ、引き寄せの対象としては微妙だから、D U X でもいい。

【ＲＬ】：引き寄せの代わりに。あ、虚空壺は射程が駄目か。

【雲外鏡】：あれは至近なのよねー 最初考えたんだけど。D U X

でいいか、エキストラつめこもう。

【ＲＬ】：あれ？ 壺いれてから移動すれば飛べるんじゃない？

【雲外鏡】：うん。ただ、2 アクションいるのと、果たして収納されたアウトフィットは効果をなすのか？というのが。

【ＲＬ】：住居なら許可するよ。後、引き寄せするなら陣地は目標値 21 っていつとく。D u x ならそのまま制御値。

【雲外鏡】：こっちなら 1 アクションでいける。教授する分心のプロットは R L ？ こっち？

【ＲＬ】：そっちでいいよ。

【雲外鏡】：ういうい。J O K E R の行き先決定（笑）。雲外鏡が何も出来ない子に！ 素<交渉>がんばるっ。

【天杜】：雲外鏡——————っ！

【アカシャ】：雲外鏡が、凄い策士……。

【天杜】：ちょっと戦闘始まる前に、アカシャにさっきの答え応えるね。

【アカシャ】：うい！

【天杜】：「アカシャ、さっきはごめん」 展開する図を目で追う。

「ワタシ、いじわるだった」

【アカシャ】：「——アモリ……」 アモリに視線を。彼女の言葉を聞いて、静かに首を横に振った。

【天杜】：「でも、ごめんね。ワタシ、ワタシの希望は」

【アカシャ】：「——」 黙して、瞳を向けて。言葉を待つ。

【天杜】：「ワタシのために死ぬといった、あのヒトと一緒に。生きて、そして人として死ぬよ」

魔力光に照らされた少女の横顔は、青くゆらめいて。図から上げた顔を、アカシャに向けた。

【アカシャ】：「……アモリ……」

その瞳を、真っ直ぐに見詰めて。

【天杜】：「だからね、そのために死のうと思ったんだけど」 目が泳ぐ。「その意思のままじゃ、P A X を説得出来なくて……やっぱり、やれるだけやってみるよ」

【アカシャ】：「——……」 その言葉に、微笑みを返す。

【天杜】：「全く、どうしてるんだろううね、あの、古本」 窓の外を見る。

【アカシャ】：「——聞っているわ。きっと——あなたと、同じように」

【天杜】：「……」

【アカシャ】：「そして、あなたと——共にある」 断言。

【天杜】：「無いよ」 ぶんぶんと真顔を手を振る。

【アカシャ】：「そう？」

【天杜】：「自分勝手だもん」

【アカシャ】：「——ふ……ふふ」 場にそぐわず、吹き出す。

【天杜】：「共にあるっていいながら、自分のことしか見てないもん」

M O R I ディスリ大会。

【ＲＬ】：頑張ってるのに……。

【アカシャ】：「気持ちちが、焦ってしまったのね、きっと」

【ＲＬ】：ちなみに、モリもどっかのエンゲージにいるよ。探してあげてね。

【天杜】：見捨てた。

【ＲＬ】：しょぼん……。頑張ったのに……どう頑張ったかは次の幕間で。

【天杜】：おめー、捕まって磔とかになってたら、まゆたんって呼ぶからな。

【ＲＬ】：おい、ディスンのやめろ。

【天杜】：まゆたんって、呼ぶからな。

「いつもいらいらしてるし、余裕がないんだね、きっと」

【アカシャ】：姉だったら、『これだから、男は……』と言うのかもしれないと、おもいつつ。

「そうなの……。彼、は——優しくて、臆病なのね。アモリがひっぱたいてあげれば。きっと、目を覚ますわ」

【天杜】：「いっばい叩いたんだけど……あ、なんでもない」

【雲外鏡】：鬼嫁。

【天杜】：生命1でいっばい叩いた。（※ 天杜の生命の能力値は1）

【ＲＬ】：ぼかぼかでは、通りませぬ。

【雲外鏡】：今度、鉄拳を教授してみよう。

【ＲＬ】：死んだ。

【アカシャ】：「え……」と少し目を見開いた。

【天杜】：「い、いっばい喧嘩したの……こ、今回だけじゃなくて」目がおよぐ。

【アカシャ】：「やっぱり——水族館の時も……？」くすりと、笑つて。

【天杜】：「うん。ワタシが遊びばかりしがるっていつてね。……ホントウはワタシ、自分で長く無い事知ってたから」螺旋断筒佚書と契約せずとも、近親婚を繰り返してきた、星女達は総じて短命である。「死んじやうって言う意味もあるけど、黎明の海星に帰ると、自由も無くなるって意味も、両方で……でも、ワタシは魔導書にとつての……薪だから、代替品だから。それを説明して哀れまれるのも嫌だったし、それで哀れんでくれる人でもなさそうだったからね。何も話さなかったの」

【アカシャ】：「——……アモリ……」じっと聴いて。その胸が、痛みに耐えるよう。

【天杜】：「おしまい」

【アカシャ】：「……もしかして。これも私の役目なのかもしれないわね」言い終えたアモリを見て。

【天杜】：「？どういうこと」

【アカシャ】：「今の話を、聞くこと。——こうして、話してくれたのだから、彼にも話せる。いえ、伝えられる」

【天杜】：「ああ、それは駄目」

【アカシャ】：「そう？」

【天杜】：「うん、これは、女の子同士の秘密だから」そう言って唇に指を当てた。

【アカシャ】：「……」目を見開いて。「——分かったわ」同じく、唇に指を当てた。「じゃあ、これも、女の子同士の秘密——」

【天杜】：「ん？」

【アカシャ】：「アモリは、只一人のアモリ。今ここにいるのは、誰も代われないの。それはね、この“現在”の"NORNIR"が——アカシャとエンジュと居るのと同じ。ここにしか居ない——でも、このことは、——アモリの場合、また彼と共に在った時に分かるかもね。それと——やっぱり、契約に口づけは必要かも」

しらっと。唇に指を当てたまま。

二話の時の答え。

【天杜】：「え、そ、そうなの？」

【アカシャ】：こくりと頷いて。

「命を吹き込まれるから——というのは、ちょっと建前かもね」

“少女”は“記録”を参照して“女神”と共に、答える。

【天杜】：「う、うーん、そう、なのかなぁ……」なにやら渋面顔。

【雲外鏡】：これで、絶対うーりーてには乗らないときめた。

【天杜】：なんで（笑）。

【雲外鏡】：契約したくないよ！

【天杜】：ばっか、乗らないともりと雲外鏡のキスシーン描くぞ。

【ＲＬ】：おまえ、やめろ。

【雲外鏡】：(o・ω・)

【天杜】：ネタのためなら、死ねる！

【雲外鏡】：(o・ω・) 真砂さん、大丈夫？

【天杜】：うん、べんべb bへいぎO。

【雲外鏡】：よし、そろそろいくか？（笑）

【アカシャ】：ごめ、ちょっとガールズトークが楽しかった（爆）。

† BGM：『 進軍 / TALES OF LEGENDIA O.S.T. Track07 』

【ＲＬ】：「おーい、そろそろいいかいー」

ガールズトークの真で、男二人でなんかはなしてた。後、ORDOが二ヨニヨみてた。

【雲外鏡】：「なにやら楽しそうだったね？」こちらも相談が終わったらしい。

【天杜】：「うん、ここにターリアを混ぜてあげたいぐらいだったよ」

【アカシャ】：「……（だって、あの誓いの口づけと同じですモノ）」

と小声でぼそっと耳打ちして「——ええ」と振り返る。

【天杜】：「（？何の誓いだろう……）う？うん」慌ててまた前を向く。

【雲外鏡】：「ふふ。それは全部終わったら、かな。みんなの大体の方針と意図を組んでみたよ。名づけて」

【アカシャ】：名付けて……？

【雲外鏡】：「聖夜の大夜逃げ作戦ー麗しの灰かぶり眠り姫ー。どう？」

【天杜】：胡乱そうな視線が、男二人を射抜いた。

【アカシャ】：ふはっ（爆笑）。

【ＲＬ】：「かっこいいと思うんだけどなあ」合意の上だったようだ。

【雲外鏡】：「横文字の方が良かったのかも」首をひねり。

【ＲＬ】：「メリー大脱走のほうにしとくべきだったか……」

【雲外鏡】：「ううん。でも、問題はメリーさんと混合されて誤解が……」

【アカシャ】：「そうね……うん、知っています」何故か、素直に頷いて。「シンデレラは急いで帰らなきゃ……魔法が切れる前に」

【雲外鏡】：「あ、うん。そうそう、急がないとね」頷き。「概要はそのままだよ。皆一緒に逃げちゃおう」

【天杜】：ねーねー、雲外鏡さん。

【雲外鏡】：あいあい？

【天杜】：慧眼と知覚組み合わせでそのエンゲージを調べたら、その場所にいる奴のスタイルもわかるんじゃないかしら。

【雲外鏡】：お。かもね。どうだろ、ＲＬ？

【ＲＬ】：ヒットしてればわかるよ。

1 新條ま○の少女マンガに出てきそうな展開だからだろう。

【雲外鏡】：あいさ。西側だけ調べちゃうね。

【天杜】：うん。

【雲外鏡】：西と東を指し。

※陣地から西の2箇所の調査

雲外鏡：<知覚><※合技><慧眼>、【理性】7+10+3（王国）＝20。

鏡の中の悪意：<知覚><慧眼>、【感情】7+CJ+3（王国）＝20。

【R L】：制御値抜けてればわかるよ！

西←【離脱ポイント】（スカルビア・Gaudium・ヴィオレッタ・しょごす）（TAROS）【陣地】

・スカルビア：カリスマ＝マヤカシ＝バサラ

・Gaudium: バサラ（分心：エニグマポイント29）

・ヴィオレッタ：クロマク＝カリスマ＝マヤカシ

・しょごす：アヤカシ＝タタラ＝ヒルコ

・TAROS: アヤカシ（アヤカシトループ29体相当:13Lv）

【雲外鏡】：「——ただ、流石に包囲網は甘くないみたいだね」

鏡に西側の包囲網の様子を映す。

【天杜】：アカシャ、毒王をインストールして。射撃武器らしいから、最悪にっちもさっちもいかなかったら※フルファイア>とる。

【アカシャ】：……ういっ。

【天杜】：いんすと——————るっ！

【R L】：ああ、忘れてた。

『——騒がしいのう。此方の力は入り用かや？』

アモリの鞆の中から、声。

【天杜】：「うん、有難う……でも……」

M O R I がいない。どうすればいいか。

【アカシャ】：「……COR……！」

【R L】："毒王古韻律"＝鬼灯相当。ダメージと達成値に共に+4。オプションスロットを消費せずに装備できる。ただし装弾数は1で、一発撃つと弾の装填にメジャーアクションが必要。

『ふん』

【アカシャ】：「“アカシャ”ワタシーの呼ぶ【A-T-G-C】に……来てくれるかしら？ COR」

【R L】：『神ならば足りるだろうよ。使いや、此方が咆哮の一欠片』

【アカシャ】：「ありがとう、COR……！」

【R L】：『まあ、一鳴きくらいはのう』

そういえば、弱すぎるという評判があったのでどめきが強くなりましたよ。

【天杜】：どめきも、自己アピールだと？

【雲外鏡】：うーうー！

【R L】：うーうー！

"兇獣怒啼きずり"＝KARURA相当。ただし、効果を「あらゆるダメージ・速度に+8」に変更する。マイナーで起動すると、そのあと全ダメージがふえます！かわりにリアクションできません……。オプションスロットを消費せずに装備できる。

【アカシャ】：インストールするかは 持ち主に任せますっ。今後もあるだろうし……。

【天杜】：付け替え出来ると、思うよ！

【R L】：つけかえはできます……。

【アカシャ】：りょおかい。念のために、入れておいた方がよさそう……？

【天杜】：怒啼きはだめ。天杜はリアクショナーだから！

【R L】：<ジャックナイフ>できないからな（笑）。

【アカシャ】：あ、そっか、うい。

【雲外鏡】：いや、入れておいていいよ。

【アカシャ】：ふむ？

【雲外鏡】：<ジャックナイフ>で最後の行動時に起動すればいい。

【天杜】：なるほど！。

【R L】：『彼奴はどうする？』

もう一冊の魔導書のことだろう。

【アカシャ】：「……」アモリを伺う。

【天杜】：「うん、やろう」

【R L】：『よかる。後ほどな』

【天杜】：「兄妹を助けるのは、当然だよな？」

【R L】：『然り』

【アカシャ】：「ありがとう……」頷いて。

【天杜】：脱出ポイントも、リサーチ対象？

【R L】：そこにはいない。

【アカシャ】：とすると、あと東の3つ

【雲外鏡】：なかにだれもいませんよ。どいてお兄ちゃん！ そいつ（移動妨害的な意味で）殺せない！

【アカシャ】：あぐれっしぷ。

【R L】：ヤレヨォ！

【天杜】：・東陣地の一番奥

<社会：アストラル><自我>

外界 9+6＝15

【R L】：【陣地】（ ）（ ）（21・イヤーゴ・Ira・NIGER・TEINN）【離脱ポイント】

【天杜】：やっぱいやーごいるとおもったんだよね！（笑）

【アカシャ】：当たり（笑）。

【R L】：21:アヤカシトループ（笑）。

イヤーゴ：タタラ◎。

Ira: バサラ（分心）。

NIGER: アヤカシ◎。

TEINN: アヤカシ（分心）。

【アカシャ】：残りは、東の1番目、2番目（左から）か。【理性】でも 18出れば、制御値、抜けられますよねっ ブーストしていない限り！

・東陣地の真ん中

【理性】5+4（永世者）+2（エトランゼ）+3（王国）+S4——18。

【R L】：【陣地】（ ）（19・20）（21・イヤーゴ・Ira・NIGER・TEINN）【離脱ポイント】

20: アヤカシトループ

19: アヤカシトループ

M O R I（神業零、【気絶】）

【アカシャ】：……、気絶してるー！

【天杜】：何処に気絶してるの……、神業なくして……。

【雲外鏡】：使い切った、だと？

【ＲＬ】：氷原に横たわってる。

【アカシャ】：ええ、そんな。

【天杜】：ホントウに役に立たない子に……。 (可哀想な子を見る目)

【雲外鏡】：神出鬼没なにつかつたんだ (笑)。

【ＲＬ】：頑張ったのに……。 どう頑張ったのかは、この後の幕間で。

【天杜】：風と刺し違えたのか？ (笑)

【アカシャ】：かな……！

【雲外鏡】：おお、頑張った。

【天杜】：駄目だ、もう MOR I が面白生き物にしか見えない (爆笑)。

【ＲＬ】：おまえ (爆笑)。

【天杜】：やべー MOR I おもしろー (爆笑)。

【アカシャ】：なんか、PC1 から PC2 (ヒロイン) にイメージが変わりました (爆)。

【雲外鏡】：間違い無い。

【ＲＬ】：「えー、以上のデータを統合するとこうなる」

【離脱ポイント】 (スカルピア・Gaudium・ヴィオレッタ・しょごす) (TAROS) 【陣地】 () (19・20・ MOR I) (21・イヤーゴ・Ira・NIGER・TEINN) 【離脱ポイント】

【ＲＬ】：陣地の東側はどうなってるか良く判らないけど。

「まあ、大丈夫じゃないかな」

といて、 P A X が図を示す。

「後この辺に、パチモン魔導書がぶっ倒れてるね」

・同エンゲージに入れば、 MOR I を回収できる。

【天杜】：深い、深いため息。

【雲外鏡】：「あれあれ。いないと思ったら、こんなところに。あはは。捕らわれのお姫様みたいだね」

【アカシャ】：「……魔導書がその身のまま、開ったと言うこと？」
口に手を当てて。驚きの表情

【雲外鏡】：「無謀だよなー。もっと良い方法・プレゼント・あげたのにさ」

【天杜】：「……うう」

【雲外鏡】：「——ん？」 天社へ視線を。

【天杜】：「な、何カナ」 視線を受けて。

【雲外鏡】：「んー」 指を口元に当て、小首をかしげる。「あ」
やがて何かを思いついたように、その場でくるとターン。

【アカシャ】：華麗だ。くるり。

【雲外鏡】：「それで、計画なんだけどね。 P A X くんとお城の皆には西側を抜けてもらうつもりなんだ」

【ＲＬ】：「200m 絨ゴールームと、敵の本陣がある。いけるかな」

【雲外鏡】：「難しいけど、“水”も“土”も距離を問わない攻撃方法を持ってるからね。東に抜けようとしたら、間違いなく狭み撃ちに落ちちゃう」

【アカシャ】：ふむふむ……。

【天杜】：「わ、ワタシもサポートについていくよ」

【雲外鏡】：「だーめ」 のんのん、と指を振り。

【天杜】：「ど、どうして？」

【雲外鏡】：「こっちは P A X ちゃんと、僕とで頑張るから」

【ＲＬ】：「一丁頑張りますか」

ちなみに、会話してる間にもどっかんどっかん砲声はしてるよ！

【アカシャ】：外が凄いことに。

【天杜】：あー、流れ弾が当たって MOR I がー (笑)。

【ＲＬ】：おまえ……。

【アカシャ】：え、そんな幕切れ。

【天杜】：だって MOR I が、面白すぎるんだもん。ほんとにお前何やってんだよ。

【ＲＬ】：天杜がいじめたからだよ。

【雲外鏡】：かぶっていた帽子を——、

< 教授 >、【生命】 2+HQ+3=15。 < 鏡の中の悪意 > → P A X。

< 運動 >、 < ※パントマイム > 1 L v、 < 自我 > 2 L v、
シンプルス、 J J F、コ・カール、ファッション (サンタ帽)
——そ、と P A X の頭に載せる。

「Alice in the mirror、クリスマスエディション」

【天杜】：くりすますえでいしょん、だと？ 次はバレンタインエディションが、出ます。

【アカシャ】：な、豪華仕様。

【雲外鏡】：え。聖ばれんちうささま？

【アカシャ】：チョコレート仕様。

【雲外鏡】：モリをラッピング。

【天杜】：いらない。あいつ組で自分でいつもラッピングしてるから良いでしょ。

【アカシャ】：あれ、らっぴんぐ・つまり、いつでもプレゼント可能。

【ＲＬ】：してねーよ。

「ふむ」

と、 P A X は暫く考えて。

< 自我 > < 永生者 > < 分心 : 鏡の中の悪意 > 【外界】
7+4+3+5=19
「ほっ」

ボン、とサンタ帽を取ると、くるくと光が伸び——サンタ服を着たターリアが出てきた。

「ふむ……悪くない……」

【アカシャ】：サンタ服ターリア。

【天杜】：「え」 その様子を、引き気味に。

【雲外鏡】：「キミはどこまでいってもターリアだね。あははは。退かれてる退かれてる」

【ＲＬ】：「あっはっはっは、惚れた弱みって奴だね」

【雲外鏡】：一通り笑い、

「——そんなわけだから、“アカシャ”」

【アカシャ】：「……——はい」 視線を雲外鏡へ。

【雲外鏡】：「キミたちは、東-そっち-よろしくね？」

言葉と一緒に、ぼーん、と何かの包みを天社へ投げる。

【アカシャ】：「——……雲外鏡」 目を見開くものの、その包みを

目で追う。

【天杜】：「え、わわっ」

取り落としそうになったのを必死で小さな手のひらの中に受け止める。

【雲外鏡】：「ソレ」があれば、「A-T-G-C」を喚べる。なくても、星女様の特性を考えればいけそうだけど——。ま、念のためにね？」

【アカシャ】：「……？」 きょとん、として、その包みを見詰め。

【天杜】：手のひらをゆっくりと開く。そこには——。

【雲外鏡】：ガッ。

白い腕がのび、袋をとじる。

【雲外鏡】：「ごめんごめん。言い忘れてたけど、中身、見ちゃやーだよ？」

【アカシャ】：隠蔽された……。

【天杜】：「え。ど、どう、して？」

その勢いに圧倒されながら。

【アカシャ】：「……——」 その様子を、不安そうに眺める。

【雲外鏡】：「あとで、MORI さんに怒られそうだもん。とにかく、もってるだけで大丈夫だから。んー、あと1、2回くらいかなー？」

【天杜】：「う、うん」 不承不承といった風に頷く。

【雲外鏡】：手を離す。

「そういうわけで、“アカシャ”、お願いできる？」

【アカシャ】：少しだけ、不安とが入り交じった瞳を向け——、

「はい——……」 それを、振り切るように、頷いた。「そのお願い——叶えてみます」と、笑みを。

【雲外鏡】：「ありがと。気をつけてね」

【RL】：「それじゃ、そろそろ行こうか」

【天杜】：「うん」

【アカシャ】：「ええ」

【RL】：「とんでも、Dux の玄室は其処なんだけどね——」

広間の奥にある高座に、ターリアを抱えたまま座る。

【RL】：サンターリアは別行動ですか？

【雲外鏡】：おい。何故サンタとターリアを混ぜた。サンターリアは……ええい(笑)、分心は西へ突貫。ターリアは中。データのにな！

【RL】：(笑) よし！

【天杜】：その様子を、眺めて。

「とても戦いに行く様子に見えないね」

【アカシャ】：「——聖夜の大“夜逃げ”作戦—麗しの灰かぶり眠り姫— だからかしら……」

【雲外鏡】：作戦名憶えられた……。

【アカシャ】：知っています。三十六計逃げるに如かず。

【天杜】：「うん……でも」

【アカシャ】：「でも？」

【天杜】：「何処が灰かぶりなのかだけがよくわからない」

【アカシャ】：「時間になったら——“お姫様”が脱出するところ……？……かし、ら……？」 自信なさげに、首を傾げて。

【天杜】：「うん、そうだね」

歩きにくい、豪華な靴を脱ぐ。

「ああでも、お姫様にはきっと王子様が必要なんだよ、女の子の都合で。ワタシ達はきっと、今は小人なのかな……だったら白雪姫も入れないとだめかな」

【アカシャ】：「——そうかも」 頷いて。

【雲外鏡】：一方、王子様(MORI)は、凍死しかけていた。

【RL】：ちーん。

【雲外鏡】：王子は、うすれゆく意識の中想った。「ハチミツって、凍ると肌に刺さるのな」と。

【RL】：まだ、ついてんのかハチミツ。

【天杜】：蜂蜜って凍らないんじゃないかなったっけ？ それで何かに使われてるってあった気がした。

【雲外鏡】：むしろ、ハチミツコーティングがなければ、即死だった。全てを計算した上での、天社の好判断である。

【RL】：不凍ペプチド的な。

【雲外鏡】：凍らないから防寒だってばっちり。

【天杜】：「ねえ、アカシャ。自分をかっこよく助けて死ぬ王子様と、ださくても一緒に生きてくれる王子様、どっちがいい？」

【アカシャ】：「……——」 手を、胸の辺りで、ぎゅっと握って。

「ワタシは王子様が“蛙”のままで、”野獣”のままで—— MASTER……——。 「一緒にいてくれる方が、良い」

言い切った。

【天杜】：「うん」

——ああ、よかった。

「女性が強い国って栄えるんだって。きっとそれは「自分に酔わずに帰って来い」って、男の人をひっぱたけたからなのかな、ってちょっと、そう思ったんだ。」

——ワタシの選択は間違っていないよね？

そう言って、頷く。

【アカシャ】：「——ええ」——MASTER。誰を差したのか。その呟きは、心の欠片に閉じ込めて。アモリの言葉に頷き返した。

【天杜】：「行こう、召喚の準備に入ります」

ドレスの裾を、翻した。

【アカシャ】：ドレスの裾を持ち上げて——その後を、追うように。

夜明けまで、残り三時間。

白銀宮攻防戦、開始。

—— SceneEnd...

【アカシャ】：黄金郷を追悼しつつ。

【天杜】：今回やけに、「あの人好きなんですよ」「いやーん！」って会話やったわ……。

【雲外鏡】：ガールズトークですね！

【天杜】：ひとつことも、好きやら愛してるやら言わなかったけど。

【RL】：オタワ。

【アカシャ】：魔導書でも、今を生きるよっ。

【天杜】：そして。幕間の主が、くるぞ。

【幕間】

【アカシャ】：きた。G T劇場ッ。

【雲外鏡】：げえ（笑）。

【天杜】：三話の編集、大変そうだなあ……。文章量的な意味で。

【雲外鏡】：ふふ、大変なのはこれからさ！

【アカシャ】：は、はおあ。た、確かに。

† BGM：『 魔人狂舞一血風、爆炎、灼ける大気を呼吸する
時間 / 機神咆哮デモンベイン O.S.T DISC2 Track02 』

ギインッ !!!

ガッ!! ガガッ !!!

ビュオウッ !!!

連打。

" 風 " のドゥルカマラの、疾風を纏った連続打撃。

人間を軽く超越した生物としてのポテンシャル、そしてその気になれば低気圧を丸ごと操るという魔力を全て身体能力のブーストへと使用した肉弾戦。空中にありながら、風を足場に踏み込み、掌底を放つ。

ガンッ !!

「がッ !!」

——インッ !!!

吹き飛ばされたMORIが、氷原に叩きつけられる。すぐさま、手の内の布に再び魔力を通す——

【RL】：オブジェクト・イン・ミラー→天塵刀

【雲外鏡】：MORIが、本気だ。

「……くっ……そ !!」

無限布を伸ばす。しかし、悪魔はそれを容易く回避し、そのまま、上空 300m 地点からの踵落とし。

「——ヒュッ !!」

「——おおッ !!!」

ガギイイインッ !!!

「——先ほどから受けてばかりでございます、ええ、まあ、マスターの居ないか来ないかわかりませんがそのような魔導書の精霊にできることなどたかがしれているというものでしょうか。どの道多少時間がございませんので——」

ぶん、と横薙ぎに振るわれる黒い剣。後方宙返りにて、それをかわし。

「——フィニッシュ !!」

ゴンッ !!!

跳躍からの、真空飛び膝蹴り—— !!

にやり、と。MORIは笑う。

【雲外鏡】：わらった。

【RL】：A.呪返符:起動

【雲外鏡】：いまよ、天杜！ 消散符を！

【天杜】：ええええ！？ もってないよ！（笑）

【雲外鏡】：え。持ってたら使うの？

「術式、クラインの壺!! 構文省略!! 単独起動!!」

「——なっ!？」

ゴ ガァァァァンッ !!!

【RL】：MORI《霧散》。ドゥルカマラ《霧散》。

「——……逃がしたか、くそ。まあ、戦場には戻ってくるまい」

尻餅をついたまま、嘆息。これで少しは楽になるだろう。

「——などと。甘かったか」

にい。

笑う。

ただ。今度の笑みは、己を奮わせる為のもの。



【天杜】：あれ、なんかへんなのきた。

【アカシャ】：え。海星さん！

【雲外鏡】：なん、だと。

シャオンツ……

抜き放つ、星屑の刃。サーベルの用に細い其れは、星の光を集めた神の剣。刀身が曳く淡い光。その一つ一つが、流星の如き膨大な魔力光。

【雲外鏡】：え。えくすかりばー？

「何のつもりだ」

「邪魔だ、イレギュラー」

「はッ。これからすれば、貴様の方がよっぽど……ッ！」

ガッ!!

ギン!!

神速。

それこそ流星のような踏み込み。

「受けたか」

ギン!! ギン!!

ガ ギン!! ——インツ!!

「くっ……めっ……」

【アカシャ】：ふおおお。

【天杜】：MORI、何やってんだ。これ、幕間とか嘘だろ。RLシーンだろ。

「貴様の機神は、要らん」

「ぐ…うっ、[CUNAE]!!」

ボツ!!!

突き出したMORIの掌から、射出される光輪。

しかし、黎明の海星の掲げた掌に——星の光が集うのを見て。

MORIが、咄嗟に障壁を展開する。

「星よ 流星よ 砕け」

——ガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガガ

ガガッ!!!!

「おおお……っぐ、……があああああああああ!!!」

【アカシャ】：ふおおおおおお。

乱舞する光。星屑の光が、氷原を埋め尽くす。

——後一発……いけるか！

「術、式、クラインの壺ッ!! 強制発動!!」

【RL】：<※スナッチ!!>

【雲外鏡】：なん、だと？

【アカシャ】：な。

【RL】：《神出鬼没》&《守護神》。MORIが使用。

【アカシャ】：スナッチで、宿主を変えて……! そういう、使い方！

【天杜】：RLがはしたない。RLが楽しく、なり過ぎてんだろ。

ガッ!!!

其れは、空間歪曲の大魔術。

輪状に旋廻する黒布に、魔術文字が一瞬だけ浮かび上がる。布に囲われた空間がゆがみ——星屑の光を、ブラックホールが如く吸収。——射出する!!

「——食らうか、貴様の力!!」

「——ほう」

ド

——オンツ!!!

【RL】：黎明の海星、《天罰》。

【アカシャ】：MORIがドゥルカマールを撃退して…… 海星にやられた、と……。

うん

【RL】：防御神業が残り一個になって、あーダルって思っただけで逃げた。

【アカシャ】：ふむ、風は、神業も飛ばないとみて大丈夫そう……。

【天杜】：うむ。

【RL】：これが本来の、モリの戦い方なんだよ——!（主張）
なっ、がんばったろ！

【天杜】：えー、次回ですがいつにしようか……。

【RL】：流しただと……。

† BGM:『 ミリルのテーマ / アークザラッドII 』(<http://www.nicovideo.jp/watch/sm4577487>)

【幕間】

「此方でございます、天杜様」

「はい」

「黎明の海星様、天杜様がお帰ります」

「……………」

「……ただ今戻りました」

「何をしに来た」

「本来の勤めを、果たしに」

「代わりが見つかった。役目に相応しきを示せ」

「御座いません」

「そうか。下がれ」

「大導師、進言が御座います」

「申せ」

「白銀宮への使いとなさってはいかがでしょう」

「……………」

「……、申せ。適う事を申せ」

「天杜様、パーティー、出たいですね？」

「……。ワタシは白銀宮から招かれております。難なくあちらに赴く事は可能で御座いましょう」

「"眠り姫"の奪取には最適でございましょう。"目的"はその後にでも」

「——……。行くならば、くぐれ」

「お召し物は此方に」

「はい」

「——くぐれ」

—— SceneEnd...

⇒ 2 B NEXT CUT!!

「——永効文書、か……………」